(19)日本国特許庁 (JP) (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-253854

(43)公開日 平成6年(1994)9月13日

(51) Int.CL		識別記号	庁内整理番号	FΙ	技術表示箇所
C 1 2 N	15/54	ZNA			スロシハ
	1/21		7236 4 B		
	9/10		9359 - 415		
C 1 2 P	19/38		7432 - 4 E		
			9050 - 1E	C 1 2 N	157-00 A
			審查請求	未請求。請求項	頁の数 9 FD (全 19 頁) 最終頁に続く
(21)出願番号		特額平5-63515		(71)出願人	000006770
					ヤマサ醤油株式会社
(22)出願日		平成 5 年(1993) 2 月26日			千葉県銚子市新生町2丁目10番地の1
				(72)発明者	野口利忠
					千葉県銚子市西小川町4399番地6号
				(72)発明者	奥山 潔
					千葉県佐倉市鎌木町2丁目6番地13号
				(72)発明者	浜本 智樹
					千葉県銚子市新生町2」目2番地1号
				(72)発明者	緑川 祐一朗
					千葉県銚子市海鹿島町5201番地7号

(54)【発明の名称】 組換えDNA手法によるヌクレオシド・ホスホリラーゼの製造法

(57) 【要約】

【目的】 ヌクレオシド・ホスホリラーゼを用いた効率 的なヌクレオシドアナログ合成を可能とするため、組換 えDNA手法によるヌクレオシト・ホスホリラーゼの大 量製造を目的とする。

【構成】 ヌクレオシド・ホスオリラーゼ構造遺伝子を 含有するDNA分子、それを用いた組換えDNA手法に よるヌクレオシド・ホスホリラーゼの製造、および該方 法で得られた培養物、微生物菌体、またはその処理物を 酵素源として使用するヌクレオシドの製造法に関する。

特開车6 0.533554

【特許諸次四戰曲】 で構造遺伝子を含むすることなっ (浄明年1) イミッツ属に関する好熱菌で中央) 記式 コンプアミア酸配列をコードするコーンスクレオ* 法口 YetAshAngThr4(a).e0.u0.n4.a4.a0.nPheLeubys0.ubysPheProThrSen ProSimileS.yluei.eteuGiySerSiyLeuSiyVa leuA.aAspGluileS.uGim A.a .elysi.eProtyrSerAspi.eProAspPheProva.SerThrVa.GiuG.yHis AlaG.yGinuedVaiTynGiyGinuedG.uGiy:.aThrva.Va.VaiMetG.nG.yArg :00 Pheh.sTyrTyrG.uG.yTyrSerPheAsplysvaiThrPheFroValAngValMetlys 1.0 Alabeufly Yaldittirletiteva: ThrAshriah.aS.yG.yNaiwshG.uSerPhe GluProGlyAspueuMoticelieSarAspHisleAscAsnMetGlyGlyAscProbeu i.eGlyProAsnAspSerAlaLeuGlyVa AngPheProAspYetSerGluA.aTynSer 170 LysangbenArgG.nbec4taLysaspVa AtaAshAspileGlybecArgValArgGlu 190 GlyValTynValAlaAsnTbrGlyPro4.aTyrGluThrProAlaGlulleArgMetile AngValMetGlyGlyAspA.aValGlyYetSerThrValProGluVallleValAlaAng 330 E.sklaGlyMetGluVa.LeuG.ylleSerCyslieSerAshMetAlaAlaGlylieLeu $AspG.n FroLeu Thr H.s \\ aspG.uVa. H.eGLu Thr Thr Glutys Vally \\ sAla \\ AspPhe$ 270 LeuAngPheValbysA.ai.eValAngAsnMetAlabysAsn $\langle \langle I \rangle \rangle$

【請求項:1】 「ブリンスウレオンド・ホスホリーーゼ構 が、記式(1.1)のアミノ酸配列をコードするビリミブンヌ 造遺伝子の上流にどり配列を含有する、請求項1記載の りしてシド・オフォーーーゼ構造遺伝子を含有するON **亲号类**。 DNASE 7.2.3人誠に演する好熱菌に出来し、5 【請求紙3】

574...

(3) 特開平6-253854 3 20 ΙÚ MetAngMetVa:AspLeulleGluLysLysAngAspGlyHisA.aLeuThnLysGluGlu IleGinFheilelteGluGlyTyrThrLysGlyAsplieProAspTyrGlnMetSerAla 50 LeuAlaMetAlailePhePheArgGlyMetAsnGluGluGluGluThrAlaGluLeuThrMet AlaMetVa.HisSerGlyAspThrHeAspLeuSerArgl.eGluGlyHeLysValAsp LysHisSerThrGlyGlyValGlyAspThrTnrTnrLeuValLeuGlyProLeuValAla SerValGlyVaiProVaiAlaLysMetSerGlyArgGlyLetGlyHisThrGlyGlyThr lleAspLysLeuGluSerValProGlyPheHisVa.GlulleThrAsrAspGluPhelle 150 AspleuVa:AsnlysAsr.Lvs!leAlaValValGlyGlnSerGlyAsrLeuThrProAla 170 AspLysLysLeuTyr4!aleuArgAspVa!Thr4:aTtrVa!AsnSer!!eProLeu[le 190 AlaSerSerileMetSerLysLyslleAlaAlaG.yAlaAspAlalleValLeuAspVa. 210 LysThrGlyValGlyAlaPheMetLysAspleuAsnAspAlaLysAlaleuAlaLysAla 230 MetValAspileGlyAsnAngValGlyAnglysThrMetAlallelleSenAspMetSer (II) 701

[武3]

特欄手行 兰方日末方柱 160 lunghqueld yTynklai eGlykshf aleljula lvki påla le<mark>AspThhtal</mark> uysélyűlüllyhnelkilAspfheelmű bleulysűelvalleüűlySenhisMetWal Tyrleda.a0.ubysAlaGerGenlelO.uG.uk.uarg.usMetledClubysAlaMet uys*sp3.,3er4 alecGinTirfnelysTorPhabecA.a4 aG.rClyG.yAspAla SenvalvalAspAspHroSenLysledAndOlnalauysTvrileileStuleuS-LAta LysG.uAspG.yTynValSenG.ul.e.atA.aAspAlaVa.C.yThrAlaAlaMe**t**Trp LesClyA.aGlyArgAlaThnLysG.uSenThrl.eAspleuA.aValGlyEeuValLeu 090 AnglysissialClyAspinavallysiys3.v6.uSepleuic.ThriteTyrSepAsm AngûluûlmYa.AspAspYa..ysû.n.ys.œulyrî:uAshlieAnglieSen41aThr 430 ProValGina.aProThrieul.eTyrAsplysiicSer

(II) 402

【請求項4】 ピリミジンヌクレオシド・ホスホリラー ゼ構造遺伝子の上流にSD配列を含有する。請求項3記 載のDNA分子。

シザナルの下流に請求項1および/または3記載のDN A分子を組み込んでなる、組換えベクター。

【請求項6】 発現制御シグナルが大腸菌内で作用する プロモーターを少なくとも含むものである、請求項5記 載の紙換えベクター。

【請求項7】 請求項5 記載の組換えベクタ~で形質軟 換された形質転換体を培養して当該酵素を生産させた。 好熱菌由来のヌクレオシド・ポスポリラーゼを保持する 微生物菌体を含有する培養物。

菌出来のヌクレオミド・ホスポリラーゼを保持する微生 物菌体、またはその処理物。

〔請述項9〕 塩基供与体、糖酸基供与体及で ご酸性 歩体をスカレオンド・ボスポニー=ゼを含有する酵素調 製物を用いて反応させ、塩基供与体の塩基鉛分と糖残基 **供与体の糖部分との間にNーグドコシド結合を形成させ** でヌクレオシドを製造する方法において、ヌカレナシド ・ホスポリラーゼを含有する酵素調製物として請求項で または8記載のものを使用することを特徴とする。メハ レオシドの製造法。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は、バンラス属に属する好 【請求項5】 細胞内で複製可能なペケターの発現制御 30 熱菌由来のヌクレオシド・ホスポリラ ゼの組換えDN A手法による製造法および該方法で得られた酵素のスク レオンド製造への応用に関するものである。

[00002]

【従来の技術】核酸系化学療法剤は、抗腫瘍、免疫抑 制、抗ウインくなどの種々の用途に使用されている。ま た、近年のエイズの流行とともにネクレオシドアナロダ ご抗りイルス作用が着目され、種々のヌクレオシドアナ コグが台載され、その抗ウイルス活性が試験されている - 化学と生物、第27巻、第6号、第356~366 【請求項8】 請求項で記載の培養物から分離した好熱 が、点に。従来、これらのヌクレオシドアナログの多くは化 学的に合成されてきたが、微生物出来のマクレオシャ・ ナツボリラーゼを利用することにより数々のメウ。すい ドアナログを効率よく調製できる事が明ららになるにつ かて、該酵素の利用はメニレオシャグキロド合成で重要

> 号,第927~937頁) 【0003】一般に、酵素の調製などしては操作性ある いは経済性に思から微生物が有利である。より、オンド ・ボスボニーーゼは、動物、微生物など種々の生物に存 (3) 存することが確認されてわり、そのいくつかは単離特別

な手段となっている。発酵と言葉、第30巻、第1

されて酵素学的諸性質が報告されている。たとえば、バ シラス属に属する好熱菌の一種であるハンラス・ステア ロサーモフィラス (Bacillus stearothermophilus) に 関してもヌクレオシド・ホスポリラーゼの存在が確認さ れている。すなわち、プリンヌクレオシド・ホスホリラ ーゼ (E.C. 2. 4. 2. 1.) 、ピリミジンスクレオシド・ ホマホリラーゼ (E.C. 2.4.2.2.) とも該敵生物より 車離精製され、その諸性質も報告され (J. Biol. Che m., 244,3691 (1969), Agric. Biol. Chem., 53, 2205 (1989), Agric. Biot. Chem., 53, 3219(1989)) , 근치 らの酵素を利用したヌクレオシドアナログの合成も報告 されている (Agric. Biol. Chem., 53, 197/202 (198 9)、特開昭 5 6 - 1 6 6 1 9 9 号公報、特開昭 5 6 - 1 64793号公報、特開平1-320995号公報)。 【0.0.0.4】 山内らは、バシルス属に属する好熱菌から 耐熱性があり比括性が高いヌクレオシド・オフポリラ ぜ(プリンタクレオシド・ホスポリラーゼ及びピリミジ シヌクレナシド・ホスポリラーゼ)を有するベジラス・ ステアロサーモフィラス(Bacillus stearothermophil us) 丁目も一 2株を見いだし、該菌株からヌクレオシド - 20 - これをヌクレオシト製造の酵素顔として使用したとして ・すスポリラーゼを車離するに成功した(国際特許公開 WO90/10080号、日本農芸化学会誌、第63 巻、第3号(1989年度大会講演要旨集),第283 頁)。

[0005]

【発明が解決しようとする課題】山内らの見いだした上 記の酵素は極めて優れた酵素ではあるが、ヌクレオシド 製造の酵素源として上記微生物の菌体自体を使用する場 合、胞子形成に伴う自己溶菌により反応液中に酵素が離 り、溶菌に伴う菌体蛋白質の流出がヌクレオシトの合成 および精製に支障をきたすという欠点を有していた。ま た、微生物の菌体を酵素源として使用する場合の一般的 な問題として、菌体内に含まれる種々の酵素により基質

もし、は生成物の分解などの副反応が生じ、生成物の収 率の低下を招くという問題があることを常に認識してお かなければならない。

【0006】このような微生物菌体を酵素源として使用 する方法の問題点を解決するため、精製酵素標品を酵素 源として用いる方法も考えられてはいるが、バシラス・ ステアロサーモフィラスは、蛋白質分解活性を有し、ヌ クレオシド・ホスポリラーゼの生産量も少なく、かつ該 酵素の精製操作も煩雑であることから、診菌株からタク 10 レオリド・ホスポリラーゼを収率より回収することは事 実上困難なことであった。

【0 () 0.7】上記の問題を克服するための第一歩とし て、山内はバシラス・ステアロサーモフィラス由来のヌ クレオンド・オスポリラーゼをロードする遺伝子を含有 するDINA断片を大腸前にクローン化し、当該酵素が大 腸菌におって生産できることを見いだした(特開平4 4882号公報)。しかしなから、該方法で造成された 組換え大腸菌におけるヌクレオシドナニホリラーゼの生 産量は好熱菌におけるそれの生産量と同等以下であり、 も、到底実用化に耐えうるものではなかった。

[0008]

【課題を解决するための手段】本発明者らは上記問題点 を解决すべく鋭意検討した結果、バシラス・ステアロサ ーモフィラス由来のヌクレオシドホスポリラーゼをコー ドするDNAの一次構造を解析し、この解析結果をもと に組換えDNA手法により大腸菌において該酵素を大量 生産させることに成功し、本発明を完成させた。

【0009】すなわち、本発明は、パシラス属に属する 脱し、ヌクレオシドの連続的な合成に悪影響を及ぼした。30 好熱菌に由来し、下記式(I)のアミノ酸配列をコード するプリンヌクレオシド・ホスホリラーゼ構造遺伝子を 含有するDNA分子に関するものである。

[0010]

【式4】

特単主じ 53854 YetkshangThravalueS linavakua3urPheLeubysS slysPhePhhThrSen ProStniteG.ylue/.ebed3.ySer3.yLeu31,Vz_be.A.aAspG.utleG.uE.n Alamelysi.eProtyrSerAsr. eProAsnSheProValSerThrValGluUlyHis AlaGlyCinueuValTyrGlyCinueudilDinalthrva.ValValMetGinGlyArg 90 Pheh.sTynTyrD.uB.yTyrSerPheasplysvaiThnPheFnoValangValMetlys AlabedD.yVa.S.eD.rbedl.ePa.ThrAsn4.aA.aD.yC.yVa.wsnG.uSerPhe GluProGlyAspleuMetllelleSerAspHislleAsnAsnYetGlyGlyAsnProLeu Tied.yProAsnAspSerA.aleadTyVa.AngfheFreAspYetSer6TuA.aTynSer Lysangheuang0 mbecalalysaspValacaashAsplieGlybeLangValang0lu 190 200 G.yVaiTynValAlaAsnThnGlyPno4.aTyrGluThnPnoAlaGlulleAngMetile ArgValMetGlyGlyAspA.aValGlyMetSerThrValProGluVallieValAlaArg H.salaGlyMetGluVa.LeuG.ylleSerCysItcScrAshMetAlaAlaGlylleLeu AspCinFroLeuThrH.saspG.uVa.1.eCiuThrThrCluLysValLysAleAspPhe LeuangPheValLysA.al.eValAng4spHet4laLysAsh 【0011】また、本発明は、バシラス属に属する好熱 を含有するDNA分子に関するものである。 菌に由来し、下記式 (11)のアミノ酸配列をコードす [0012] るピリミビンスクレオシド・ポスポッラーゼ構造遺伝で 125.1

.. 5,7%

(7) 特開平6-253854 11 12 20 MetAngMetVa.AspleulleGlulysLysAngAspGlyE.sa.aleeTholysGluGlu IleGInFbelleLeGluGlyTyrThrLysGlyAspl!eProAspTyrGInMetSerA:a 60 LeuxlaMetAlal.ePhePheAngOlyMetAsnG.uGluG.uThrAlaGluLeuThrMet AlaMetVa:HisSerGlyAspThrileAspLeuSerAngl:e0:u6ly:TeLysValAsp 90 LysHisSerThrGlyGlyVaiGlyAspThrTnrTnrLeuVaiLeuGlyProLeuValAla SerValGlyValProValAlaLysMetSerGlyArgGlyLauG.yHisThrGlyGlyThr 130 IteAsplysLeuGluSerValProGlyPheHisVa.G.ulleThrAsrAspGluPhelle AspleuVa.AsplysAsrLysTieAlaValValGlyG.nSerGlyAsrLeuThrProAla AsplysLysLeuTyr4laLeuArg4spValThr4+aTtrValAsnSerlleProLeuIle 190 $A la Ser Ser \\ le Met Ser \\ Lys \\ le A la A la G \\ ly A la AspA \\ la \\ le Val Leu \\ AspVa \\$ 210 LysThrGiyValGlyAlaPheMetLysAspleuAsnAspAlaLysAlaLeuAlaLysAla MetValAsplleGlyAsnArgValGlyArgLysThrMetAlalle[leSerAspMetSer (II) その1

【式6】

特明平の一つも3954 yeare abeo3. Na lival bala leaspTrotes uysényénugnyéhodhukskételndhuteulyséenkanleudhybenmisMetVan Tyrueuk.a0.uuyskiladerderdeli (3.lk.akrxb.smetleli.uuysk.amet uys tsp@., Ser# aled@.col. of helps for fixedecalatical.col.yb.ytspAla Senvalla, Aspaspanoŝent, suppanodina, auystyni, et let tuleud. La ta uysd.uAsp0tyTynValSere.ui.ebatA.aAspA.aVatO.yThrAtaAtaMetTrp 380 LecGlyAlaGlyArgAlaChnt)sGluSerIhrl.eAspleuAlavalGlyLouValleu Anguysiyahakû yAsiAkaha LysuksîkyêkuSerledie.ThriteTyrSerAsn Angétudinya.AspAspya - ysétniysteuTynituassiteangiteSenkiaThn 43C ProvatGinalaProThrueLt.eTyrAsplystieSer

(11) その2

【0013】さらに、本発明は、細胞内で複製可能なべ **クターの発現制御シグナルの下流に上記メグレオシド・** ホスホリラーゼ構造遺伝子を含有するDNA分子を組み 換された形質転換体を培養して当該酵素を生産させた。 好熱菌由来のスクレオシド・ボスボリラーゼを保持する 微生物菌体を含有する培養物、および該培養物から分離 した好熱菌由来のスケレオシド・ホスポリラーゼを保持 する微生物菌体もしてはその処理物に関するものであ

【0014】さらにまた、本発明は、塩基供与体、糖残 基供与体及び引り酸供与体をスカレオシャ・オフオニラ ゼを含有する酵素調製物を用いて反応させ、塩基供与 体の塩基部分と糖残基供与体の糖部分との間にパーダ!! # コシド結合を形成させてスクレオシドを製造する方法に おいて、ヌグレオシア・ボスポリラーゼを含有する酵素 調製物として talk培養物または上記斂生物類体もしては その処理物を使用することを特徴とするはつしゃ。トロ 製造法に関するものである。

【0.0.1.6】以下、本発明について詳述する。なわ、本 明細書における以下の用語は下記の定義で用いられてい る。「パシラス属に属する好熱菌由来」とは、DNA分 子の塩基配列がパシラス属に属する好熱菌の遺伝子のそ れと実質的に同じであるということを意味するものであっぷ。

って、必ずしも本発明によるUNA断片がパシラス属に 属する好熱菌から抽出されたものに限定されることを意 味するものではない。「塩基配列が実質的に同じ」と 込んでなる組換えベクター、該組換えベクターで形質転 30 は、マクレオシド・ホスポリラーゼとしての遺伝情報が 維持されている限り、いくつかの単位ヌケレオチド(姫 基: の置換、欠失及び、または付加があってもよいこと を意味する。

【0016】1、ヌクレオシド・ポスポリラーゼ構造遺 低子を含有するDNA分子。

本発明におけるバシッス属に属する好熱菌由来のスクレ エンド・ホスホリラーゼ構造遺伝子を含有するDNA分 子とは、上記式(1 および/または式(1 1)のアミ 「酸配列をコードするヌクレオシド・ホスホリラーゼ構 - 造遺伝子を含有するものであっ、その具体的な塩基配列 は特に限定されるものではない。たとえば、図1に示す 制限酵素地図に規定されるいド点分子。より具体的に、 ゴルンヌクレオンド・ナスポーラー 代構造遺伝子を含有 するしNA分子としてはV! 12月131で切断され まものを、ピドミジンマドレオシド・ボスオゼ構 満遺伝子を含有するDバム分子としてはPs tileHi nc~~で切断されるものを、プリシスクレオンギ・オ スポッカー ぜわよびピッミジンヌケレオンド・ボフボー ラーゼの両構造遺伝子を含有するUNA分子としてはN てい「ヒEマーRIで切断されるものをそれぞれ例テキ

15

ることができる。

【0017】このようなDNA分子は、スケレオシド・ホスポリラーゼの構造遺伝子の他に少なくとも構造遺伝子の上流にSD配列をを含有するものであり、構造遺伝子のみを含有するDNA分子を使用した時と比較してスケレオシド・ポスポリラーゼの生産最を著して増加させることができる点で、本発明の目的にかなうものである。従って、本発明が法においては、関立へはに対す塩基配列中の少なくともSD配列から終止コドンまでの塩基配列を含有するDNA分子を使用することが肝要である。なお、プリテスクレオシド・ボスポリテーゼがよびビリミジンスクレオシド・オスポリテーゼが面酸素を生産させる場合には、そのDNA分子中の構造遺伝子の上流にSD配列が少なくとも一て存在するもいを使用すればよい。

【①①18】 たお、図1における「punA」はプランスクシオンド・ポスポリラーゼをコードする遺伝子(822 bp. 371 個のアミ(酸からなる分子量が50 のオッパプチドをロードする)、「pyo」はピリミデリフケレオシド・ポスポリテーゼをコードする遺伝子(1298 bp. 433 20個のアミノ酸からなる分子量46,271のポリバブチドをコートする)を示す。本発明者らによる解析では、両遺伝子はクラスターをなしており、それぞれその翻訳開始に必要なリポソーム結合部位を有しているが、その近傍の5 上流に好熱菌のプロモーター構造を有していない。

【0019】このようなDNA分子は、先の山内の方法 (特開平4-4882号公報)などのように高温でのマ クレオシド分解活性を指標としてバジラス属に属する好 熱菌からクローン化することができる。あるいは通常よ 30 制シグナルを例示することができる。 く行われるように、バンラス属に属する好熱菌由来の精 製したヌクレオシド・ポスポリラーゼのアミノ未端など の一部アミノ酸配列を既知の方法で決定し、もしては上 記式(1) およびアまたは式(11) のアミノ酸配列の 一部の配列を参考にし、それに相当するオリゴヌクレオ 千ドを合成し、載オリゴマグレオチドをブロープとして バシラス属に属する好熱菌の遺伝子バックよりマクレオ ンド・ホスポリギーゼをコードする遺伝子を含有するD 17 八断片を選出する方法も採用できる。クローレ化に用 いる宿主は特に限定されないが、操作性及び簡便性から 40 大陽菌を宿主とするのが適当である。さらに、図2~4 を参照して通常の10~4合成機を用いて化学的に合成し てもかまわない。

【0020】通常、プラスミドベクターなどにこれらの断片をプローン出しても一該DNA断点はプロモーターを有していないか、あるいはプロモーターを有していても異種蔵生物内で効率的に機能できないことが多く、コードされた遺伝子の補発規は通常配こらないとされている。また、コーディンプ領域以外の余分なDNAを有していると、たとえブラミミドベクタードに存在している。

他の遺伝子のプロモーターからのリードスルー(read: hrough)転写によっても、その発現が起こりうることがあり、好ましいことではない。このため、目的とする遺伝子の高発現を具現化するためには、プローン化したDNA断片の塩基配列を解析し、該遺伝子のローディング領域を特定し、宿主微生物に応じて設遺伝子が微生物菌体中で高発現可能となるように発現制値シゾナル(転写開始及び翻訳開始シグナル)をその5 上流に連結した組換え発現でクターを作製する必要かある。DNA塩基配列の決定は一常法により行うことができ、たとえばマキサムーギルバートの方法(Methods in Enzymology, 65、至9(1980))もしくはダイデオキシチェインターミネ

ーター法(Methods in Enzymology, 101 20(1983))な

16

どを応用して行うことができる。 【0021】2 組換えベクター

ヌクレオシド・オフホリラーゼ遺伝子を異種微生物内で大量発現させるために使用する発規制御シグナルとしては、人為的制御が可能で、ヌクレオシド・オスポリラーゼ遺伝子の発現量を飛躍的に上昇させるような強力な転写開始並びに翻訳開始シグナルを用いることが望ましい。このような転写開始シグナルとしては、宿主として大腸菌を用いる場合には、Iacプロモーター、 Irpプロモーター、tacプロモーター(Proc. Natl. Acad. Sci. USA., 80, 21 (1983)、Gene, 20,231 (1982))、trcプロモーター(J. Biol. Chem., 260, 3-39(1985))などを、酵母を宿主とする場合にはグリセルアルデヒトー3ーホスフェート・デヒドロゲナーゼ(J. Biol. Chem., 254, 2078 (1980))や抑制性酸性ホファターゼ(Mucl. Acids Res., 11, 1657(1983))などの遺伝子の発現制シグナルを例示することができる。

【0022】ペクターとしては、種々のプラスミドヘク ター、ファージベクターなどが使用可能であるが、微生 物菌体内で複製可能であり、適当な薬剤耐性マーカーと 特定の制限酵素切断部位を有し、菌体内のコピー数の高 いプラスミドベラターを使用するのが望ましい。具体的 に大腸菌を宿主とする場合には、pBR322 (Gene. 2.95) (1975)) 、pUC18, pUC19 (Gene、33, 103(1985)) など を例示することができる。また、酵母を宿主とする場合 には、YEp13 (ATCC 37115) 、YEp24 (ATCC37051) な - どを例示することができる。ヌクレオシド・ホスポリラ ーゼ構造遺伝子の調製、クローニングした遺伝子と発現 制御シグナルとの連結などの方法は、一般の技術者、特 に分子生物学、遺伝子工学の分野に属する技術者にとっ ては周知の技術であり、具体的には、例えば「Molecula r Cloning」(Maniatis 多編、Cold Spring Harbor、New York (1982)) に記載の方法に従って行うことができ

【0023】3. 肝質転換体の作製と培養

る。また、ローティング領域以外の余分なDNAを有し 作製した組換えバフターを用いて微生物を刑質転換す ていると、たとえプラコミドベクター上に存在している 50 る。宿主となる微生物としては安全性は高く取扱いやす

いもこであれば特に限定されない。例えば、大腸酸、酵 母など10以ら組織を操作に関用されていり着生物を使用 することができる。その中でも、大陽南が取扱い上、及 びマクレオシドア十二ゲ台成五有利であり、例えば組織 きDNA/実験に使用される K12株、0600菌、JM105菌、1 M109菌などが使用可能である。微生物を円質転換する方 伝はずでに多くこの法が報告されており、宿主として使 甲する敵生物に応じて適宜選択すればよい。例えば大脇 歯を宿主として使用する場合、低温下、塩化ガン、ウム 処理して菌体内にブラスミドを導入する方法 ! Moi. Boy 39, 189 197 つ こより 5勝菌を形質転換するこ とができる。また、酵母を樹毛とつる場合には、ゴロト 기르 지ト統 (Proc. Nat., Read, Joh. 054, 기 (1929) (1978)) 、あるいはアルガッ金属処理法 (J. Bacterio 7. 15% 163 (1988) などの方法を採申すること付け ⇒ ≋.

【C 〔24】得られた形質転換体は、当該微生物が増殖 可能な培地中で増殖させ、さらにコローン化したスプレ オント・ホスポリラーゼ遺伝子の発現を誘導して菌体内 に該酵素が大量に蓄積するまで培養を行う。形質転換体 ② の培養は、炭素源、窒素源などの当該飯生物の増殖に必 要な栄養源を含有する培地を用いて常法に従って行えば よい。例えば、大腸菌を宿主として使用する場合 培地 として2×YT培地(Methods in Enzymology, 100 20(1983)) 、L B培地、M.9 C A培地 (Molecular Clon ing、 前述)などの大陽南の培養に常用されている培地 を用い、20~40℃の培養温度で必要により通気、機 律しながら培養することができる。また、ベクターとし てプラスミドを用いた場合には、培養中におけるプラス ミドの脱落を防ぐために適当な抗生物質(プラスミドの-30 しては $3\sim 1$ 0 から適宜至適条件を選択し、適当量の無 薬剤耐性で一カーに応じ、アンビュリン・デトラサイク じンなど)の薬剤を適当量培養液に加えて培養する。

【0025】培養中にスクレオシト・ホスポッラーゼ遺 伝子の発現を誘導する必要がある場合には、用いたげに モーターで常用されている方法で診遺伝子の発現を誘導 する。例えば、lacプロモーターやtarプロモーターを使 用した場合には、培養中期に発現誘導剤であるイソプロ ピルーピーローギオガラクトピラフシド(ル)下、1.ドア らら略称する)を適当量添加する。また、使用するプロ モーターが構成的に転写活性を有する場合には、特に発し 抑 現誘導剤を添加する必要はない。マクレオシド・オスズ 1.ラーゼ遺伝子の発現を誘導した後、該遺伝子産物を落 体内に大量蓄積させるため、さらに数時間に均養を継続 すて酵素採としての培養物を得る、得られた培養物は? 21. オントアナログ合成の酵素源として使用できる。

【U026】4、培養菌体及びその処理性

組換え菌は、培養後膜分離あるいは遠心分離処理などに よりその菌体を回収する。培養菌体そのものを酵素源と して使用する場合、回収菌体を適当な緩衝液に懸濁して 直接スクレオンドアナログの合成に使用できる。また、

酵素的・ケレオンド・ア・コザ合成を行うできには、い --{一菱体より生産されたタウンオンド・ナスナーバーゼル 講製すればよい。例えば、回収した関係を適当な緩衝液 に鬱濁し、超音波処理、 コンデブレス処理などにより 物理的に菌体を破験するが、あるいは リゾチーム処理な 三酵素的に溶菌させ、菌体残渣を適心分離により除去し 「無細胞推出液を調製する。無細胞推出液内に該酵素は 減剰に存在しているため、無細胞抽出液そのものを酵素 標品として使用することができる。さらに精製が必要と される場合でも、熱処理、硫安塩析処理、透析処理、工 グラー、などの溶媒処理、各種がはマトプラフィー処理 などの酵素精製に通常使用されている処理を単独で、ま たはせいぜい 2 種類の処理を組み合わせただけの簡便な 手段でメグレオシドアナログ台成に好適な高度に精製さ むた酵素標品を楽製できる。なお、大槻南を宿主敵生物 とする場合、無細胞抽出液を熱処理(60~600で) ~ 1(分)するとほとんどの大腸菌由来蛋白質が変性 し、遠心分離操作により簡単に除去でき、非常に効率的 な酵素の精製が可能である。

: 5

【0027】5、ヌクレオシド・アナログの台政 本発明のヌクレオシド・アナコグの合成は、 E記の培養 物または上記の培養菌体もしくはその処理物を使用する ことを特徴とするものであり、その他の条件方法は公知 ○ 万法(たとえば、国際特許公開W○90/10080 月参照)に準じて行えばよい。すなわち、使用する酵素 の殿遼条件を予備試験により設定し、この条件下で原料 化合物と培養物または培養菌体もしてはその処理物とを 反応させることにより実施することができる。さらに具 体的には、反応温度としては20~95℃、反応10日と 機しン酸を含有する適当な緩衝液に糖残基供与体として ラクレオジド及び塩基供与体として塩基アナログなどを 添加し、設定条件下で反応させることにより行うことが できる。反応終了後、台成されたヌクレオンドアナログ に核酸関連物質の精製法として通常使用されている方法 を適宜組み合わせて精製単離することができる。

[0028]

【発明の効果】本発明により可述した従来の問題点が解 決され、ベシラス属に属する好熱菌田来のヌケレオシド 一・オスポリラーゼを用いた効率的なスクレオシドアナロ が台成が可能となった。すなわち、本発明は下記の利点 きかえる。

く 微生物菌体を酵素調とした、副反応の少ない幼者 町なスクレオンドアナロゲ台成が可能となる。パンラフ 個に関する好熱菌菌体を酵素値として マウレオシドアナ こ々を台成する場合、メグレザシド・ポスポリラッゼ以 外の基質あるいは生成物分解酵素も耐熱性を有するだ め、高温での反応でも副反応が進行する。しかしなだら 例えば、宿主敵生物として大腸菌を用いて高温で合成反 (3) 応を行えば、大腸菌田来の酵素はそのほとんどが失活

し 副反応はほとんど生じない。また、大腸菌などを宿 主衆生物とすれば、従来の自己溶菌の問題は解決され る。さらに、粗換え藺においては好熱菌由来マウレオシ ド・ホスポリラーゼが大量生産されているため、台成反 応に使用する菌体量は少量で充分であり、経済的にも効 率的なヌクレオシドアナログ合成が可能となる。

【0029】 (II) 酵素大量調製が簡便となり、酵素的 マウレオシドアナログ合成の実用化が可能となる。 従来 のパンラス属に展する好熱菌からのヌケレオシド・ホス A 手法により診酵素を大量生産させることで、その大量 調製は極めて簡便となる。例えば、大腸菌を宿主競生物 とすれば、リゾチーム処理あるいは超音波処理などの簡 便な操作「高収率で該酵素を抽出できる。また該酵素は 耐熱性を有することから、熱処理を施すことで、副反応 に関与する大腸菌酵素を失活除去させることが可能であ り、簡便な操作で比活性の高い酵素標品を調製すること も可能である。ブリレヌクレオンド・ホスポリラーゼ及 びピリミジンスクレオシト・カスポリラーゼ両酵素を用 いてヌクレオシドアナログを合成する場合、どちらかの 20 酵素が関与する反応が律速となり、効率的な反応が生じ ない現象がある。しかし、好熱菌からは一定の比率でし かプリンヌクレオンド・オスポリラーゼとピリミジンヌ クレオシドホスホリラーセが調製されず、その比率を変 えることは極めて困難であった。しかしながら、両酵素 を組換えDNA手法で別々に生産することにより、その 比率を改変して効率的なヌクレオシドアナログ合成を行 うことも可能となる。このように、本発明はメウレオシ ドアナログの効率的な製造を実用化するものであり、産 業上きわめて有益なものである。

[0030]

【実施例】以下,Bacillus stearothermophilus FH6-2 株(微工研条寄第2758号)由来のヌクレオンド・ホ スポリラーゼに関して実施例をあげ、具体的に説明す る。また、本実施例におけるDNAの調製、制限酵素に よる切断、TADNAリガーゼによるDNA連結、並び に大腸菌の形質転換法は全て「Molecular Cloning」 (前述) に従って行った。また、各種制限酵素、T1〇 NAリガーゼ、プラスミドベクター pUC:18及び pilC1: 9. pPstI リンカー並びにキロシークエンス用デレーシ 40 ヨンキットは全て宝酒造(株)より入手した。

【9031】実施例1 好熱菌スクレオシド・ホスナリ ラーゼ構造遺伝子を含有するDNA分子のDNA塩基配 例の決定

先に山内らにより調製された好熱菌Bacillus stearther moph:lus TH6-2株由来のプロンヌクレオジド・オフボロ ラーゼとピリミジンヌクレオシド・ホスホリラーゼをロ ードする遺伝子を含有する4.6 kbのDNA断片(図1参 照 特開平4-4882、この断片が挿入されたpUC119

リKY・2は平成2年1月1ト日に工業技術院微生物工 業技術研究所に寄託され、商工研菌寄第11197号の 受託番号を受けている) よりプロシヌクレオシド・ホス ボリラーゼ構造遺伝子を含有すると思われる。2.4 kb のSacl EcoRV DNA断片を pDC118及びpUC119にサブタ コーン化した。詳組換えブラグミドをキロシーウエンス 用デレーションキットを用いて、文献 (Gene, 28,351) (1984)) ぶ方法に従って当該挿入部分の一部が脱落し、 異なる鎖長を持った種々のクローンを作製した。得られ ホリラーゼの調製は極めて困難であったが、組換え $\mathbb{D}N=10$ た種々のクローンの挿入断片について、 \forall イデオキシチ ニインターミーネーター法 (Science, 214, 1295(198 によりDNA塩基配列を決定した。その結果、同2 にデオプリンストレオシド・ホスナリラーゼ構造遺伝子 のDNA配列を得た。この塩基配列は、822 bpであり、 Met で始まる 274 個のアミ /酸からなる分子量 29,637 のプリペプチドをロートする。なお、このペプチドのア ミノ末端20個ミアミノ酸配列は、精製単離した好熱菌 プリンヌクレオンド・ボスポリラーゼのそれと完全に一 致した.

> 【0032】次に、ピリミジンマクレオント・サスポリ ラッ七構造遺伝子を含有すると思われる2-8 kbのPstJ-B coRIDNA断片に関しては、pUC11s及びpUC119に各種制 限酵素を用いてショトガシーサブクローニングを行い、 モと同様ダイデオキシチェインターミーネーター法でそ の塩基配列を決定した。その結果、四3および4に示す ピリミジンヌグレオシト・ホスポリラーゼ構造遺伝子を 得た。この塩基配列は、1,298 bpであり、433 個のアミ 7酸からなる分子量 46.271 のポリペプチドをコードす る。なお、このパプチドのアミノ未端10個のアミノ酸 配列は、精製単離した好熱菌ピリミジンヌクレオシド・ ボスボリラーゼのそれと花金に一致した。

【0033】実施例2:好熱菌ヌグレオシド・ポスポリ ラーゼ髙発現用組換え パタターの作製

プリンヌカレオミト・ポスポニューゼ生産用組換えべた ター pTrc punAを以下の方法で作製した(図3参照)。 すなわち、プラスミドコケヤーpTrc994(Gene,69、30) (1988)、Pharmacia 社より入手) を制限酵素 Mcol及びS malで切断後、プリンヌクレオンド・ボスボリラーゼ構 造遺伝子及ごSD配列を含有するNeol Hoal D.N.A.断片 と上記プラフミトドクターrTrc994の切断断片とをです DNAリガーゼを用いて連結し、該連結反応液を用いて 大腸菌 JMIの株を肝質転換した。得られたアンビジルト 耐性形質転換体より、pTc994〇発規用tro プロモッター ⊄ 直後にSD配列及びゴリンマやレオンドホスホリーー ゼ構造遺伝子が挿入された組換えてサターpTro-pun4を 得た。

【0.034】次に、ピリミジンマグレオシド・ホスナッ ラーゼ高発現用組換えイクターpTrc pvmを作製した(図 6 参照)。 すなわち、先ぶ4.6 kb のDNA断片を制限 プラフミドを保持する大腸菌民 1/2株エシェフシア・コ-50 -酵素 HincH で部分分解し、さらにその生成物にT $4\mathrm{DN}$

ふこだこだを中心で 始いた しょうを運輸した 反心制 成物は、さらに制限酵素粉に作切断し、ヒーミビジネや . オンド・ボスポート ゼ構造遺伝子及びそことD配例 を含有する2.2.2 kb の8yt(1 Nix 野りを調製した。この DNA動作と制限酵素Ps:Iで切断したpTrc994をですD 入兵・ガーゼを用いて連結反応を行い さらけ該反応機 を用いて大腸菌1901の株を形質転換した。得られたアン セントン耐性形質転換体より、pTrobakの troプロモー ター直後のPsil切断部行けらり配列及びとしまりたまた。 - からの転移が向と一致して挿入された組換えベツター pTro pynを得た。

(いの30) きさは、好熱菌は10 スタレオント・カツ すしゃ ゼ及びビコミジンネサ、オミド・ホスポリテ ゼ肉酵素生産用ベラタ・ pTrc-YEを作製した(図7参 朗)」すなわち、先さ4.6 kbのDNA断片より両酵素構 造遺伝子及びそれぞれのSD配列を含有する Neol EcoR || TONA断点と制限酵素 Necl 及び EcoR! で切断したp Tro99AをT 4L NA (ガーゼを用いて連結し、その連絡) たアンピション耐性形質転換体より、pTrc994のtrcプロ モーター直後のNool-EcoRI供断部位にプリンスケレオシ ド・ホスホリラー ゼ及びピリミジンスクレオシド・ホス ホリラーゼのSD配列及び構造遺伝子が挿入された組改。 えベクターpIrc NEを得た。

*【りょうら】実施例3:5 質転後体の培養と酵素接出 上記で3種類の組換ネベッタトを保持する大腸菌の質動 機体を、1.3、1.3 m.のアンピン しを含有するしますで 培地100mlに植菌し、37%で振どら培養した。: ||x|||31 ||桐|||m!に達した時点で、培養液に終濃度、m Mとなるように「ETGを添加し、まらにもでかけい時 『開振とう培養を続けた。培養終「後、遠心分離」』。 U U a、13分間ににより掲載菌体を回収し、20m。 の幾衡改 ((mM) > で塩酸), Hで '8 シオンド・ボスポット--ゼ構造遺伝子が troプロモーターム Mill BDTA、0、1 cliritor V100 に懸濁した 落 |体懸濁液に軽濃度1mg/mlllなるように、ビチャム を加え、370で一時間採温することで形質転換体を溶 | 菌させ、さらに遠心分離して、910以上により10分間。1 より菌体残渣を発去した。このようにして得られた土青 。画分を菌体抽出液とした。菌体抽出液におけるメニンサ シド・ボスボルラーが活性を対照菌 spTrc99Aを保持す る大腸菌IM105、及びpCC119 PYR2 (特開平4 - 4×5 21 を含有する大腸菌JMODO と共に下記表に示す。な おこづけンスカレオンド・セスポーラーゼ及びビーミア 反応液を用いて人腸菌別109株を形質転換した。得られ、ゴーン・ヌウレオシドホスポリラーゼ活性は、山内の方法 - (特開平4:4882) に従い、70℃におけるそれぞ れイノシン及びウリジンの加引ン酸分解活性を測定して 算出した。

[0037]

[表1]

潮 ょくプラネミト**	プリペクルホシド分解活性 (un.ts/mg prote n.	Elicativatual Ki分解活性 - vunitsing protein/**
JM:05/pTro99&	0. 3	1. 1
JM105/pUC119-PYRS -	1 7. 1	11.6
JM. 15/ pSinc rpuc A	134.3	刺走せず!
JM135/pTnc pyn	想定せず	1 (0). 3
i = 0 UMRD9.pThc NE	134.7	6.6.0

*Langt to Lourous Hypexanthine production of host 70to

**i what is I wrow like a horder to a man it 10 m.

を保持する形質転換体におしては、対照機 pTro99Aを 保持する大腸菌JM1950 の100倍以上の高温で活性を 有するスクレオシドホスホリラーゼ活性が確認された。 また。本発明で造成された形質転換体(pTrc-NB 保持) 菌には、従来法(特勝平1-1582)で造成された形 質転換体 (pUC119 PYR2 保持菌) の6~8倍のスクレオー*記 - 【0039】実施例4:培養菌*体を用いたヌクレオ)ド

(ロー3ト)表1に示すように作製した組換えペラター・・・シャ・ガスカ リャーゼを生産できることも確認された。 また、この形質転換体に生産性は元色である好熱菌Bac llus stearothermophilus TH6 2 株の約8倍に相当す る。なお、これら組換えベクターを保持する大腸菌形質 - 転換体より調製されたヌクレオンド・オスポーラーゼ は、好熱菌由来の酵素と同等の性質を有していた。

.23

アナログ ミリバビリン) の合成

実施例3上同様の方法で得られたpTrc-NE を保持する大 腸菌 JM109株の培養液10m1より遠心分離により培養 菌体を回収し、1 m | の生理食塩水に懸濁した。この菌 体懸濁液に塩基供与体にして40 mM 1.2,4 ト リアゾールー3ーカルボキサミド(以下、「トリアゾー ルーと略称する)、また糖残基供与体として60mMの ウリアンを含有する10mM リン酸緩衝液 (pH 6) 0・9m1を採加し、45℃で1時間反応させリバビリ ンを合成した。生成したリバビリンは、文献の方法(国 10 際特許公開W〇 90/10080号) に従い、HPL Cでリバビリンの生成率を測定した結果、対トリアゾ ル比92%でリバビリンが合成された。また、副産物の 生成は認められなかった。

【0.04.0】実施例5 | 菌体抽出液を用いたヌクレオシ ドアナログ (リバビ) シ) の合成

実施例4日同組成のトロアゾール、ウリジンを含有する リン酸緩衝液) 0 mlに、実施例3で調製された形質転 換体JM109 / pTrc-NE由来の菌体抽出液を186μ 1 添加 (終濃度プリンヌク1/オシド・ホスホリラーゼ10 unit/ 20 面に ピリミジンスクレオシド・ホスポリラーゼとし 5 u nit/ml) して、50℃で8時間反応させた。実施例4と 同様の方法でリバビリンの生成率を測定した結果、対ト リアゾール比90%でリバビリンが合成されていること が確認された。また、先と同様、副産物の生成も認めら れなかった。

[0041]

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、好熱菌 Bacillus stearothermophilus TH6-1株由来のプリンヌクレオシド・ホスホリラーゼ及 30 の構築法を示したものである。

びビリミジン・マクレオシド・ホスホリラーゼ構造遺伝 子を含有する4.8 kb Sacl-EcoRL DNA断片の制限酵素 地図を示したものである。

【図2】図2は、好熱菌 Bacillus stearothermophilus TH6 1株由来のプリンヌクレオシド・ホスホリラーゼ構 造遺伝子を含有するDNA断片の塩基配列を示したもの である。図中、S.D.はSD配列を、Met はプリンヌクレ オンド・ホスポリラーゼ構造遺伝子の翻訳開始コドン を、stopはその停止コドンを、Met of gppynはヒリミジ シヌクレオシド・ホスポリラーゼ構造遺伝子の翻訳開始 コドルをそれぞれ示す。

【図3】図3は、好熱菌 Bacillus stearothermophi.us TH6-T株由来のピリミジンスクレオンド・ホスポリラー ゼ構造遺伝子を含有するDNA断片の塩基配列を示した ものである。図中、S.D. はSD配列を、Metはピリミジ シヌフレオシド・ボスホリラーゼ構造遺伝子の翻訳開始 コトンを、stop of gppunAはプリンスクレオシト・ホス ポリラーゼ構造遺伝子の終了位置をそれぞれ示す。

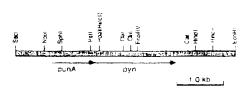
【図4】図4は、好熱菌 Bacillus stearothermophilus - TH6-1株由来のビリミジンスクレオンド・ホスポリラー ゼ構造遺伝子を含有するDNA断片の塩基配列を示した ものである。図中、stopはその停止コドンを示す。な お、図3及び4に示された塩基配列は一連の連続した塩 基配列である。

【図 5】図 5 は、組換えプラスミドベクター pTrc-punA の構築法を示したものである。

【図6】図6は、組換えプラスミドベクター pTrc-pyn の構築法を示したものである。

【図7】図7は、組換えプラスミドベクター pTrc-NE

[図1]



[X 11]

. 0	20	- · · ·	41	50 	ا المستخد مي والاستخداد
A <u>TCGA7A</u> ` Nes I	ACCUTGITTE	ATCACOAC AS	A SATE ATACA	The second second	
TOTGTATAGE	D3 AGTANDAAD4	AATIGADUNA	CHID A HOTTTHALATIK	THEFT COURSE	COMPANIES (A.S.)
loo Tabutte TA	140 AGGATTGJAC	119 AAAACTTTIGG	1 - 1 TET JANGATO	0.044VVP.	JAACAACTT.
				44.00	
		5.2.	2.5	AZIA SITATT 290	3 G
350 TACAATTTTT	260 AAAAGAAAAG	TTTCCAACT	FAC 100AAT	JOS JITAĀ ^{TĀ}	
51C SITTAGGTGT	GTTGGCCCAT	350 GAGATTGAAC	340 AA LICATTAA	688 CATOCOUTAL	AGCUA FATT
	0.2.2	200	4.30	410 GCTCCTATAC	4.30
430 AAGGGGGAAG	AGTAGTCGTT	ATGCAAGG'R'	CHTTTC ATT A	470 TEACGAAGGA	TACAGCTTG
490 AAAGGAATA	500 GTTCCCTGTC	510 CGCGTGATGA	520 AAGUTETEGE	530 TGTCGAGCAC	54C TEAATUGET
		6.73	596		60
	200	0.30	613	6.50	660
ATCATATTAA	TAACATGGGC	GGCAATCCCC	TEATCOUTEC	GAATGATTET	
670 TUCSCTTCCC	EBC AGACATGTCG	GAAGCATATA	760 CTAAACGACT	710 TOGTCAACE	720 GCCAAAGATG
730 TAGCAAACTA	T40 CATCGGTTTA	750 CGTGTGCGCG	760 AAGGTOTGTA	TTO TOTOGCCAAT	
			620		84:1
	GCCTGAAGTG	ATEST GOOD	FR CATGORGS	AATOGAAGTO	CTCGGTATTI
910 STOTATOTE	920 GAATATGGCT	and "GCAGGIATH"	046 DBCADTALAI	GCTTACCCAT	CAT AM INA
97. 147. 447. 101	OGAAAAAGTA	999 Tek St. adam. 1	1 000 TOTALGATT	#010 mg/m/sgcmc	ATVICTOR
. 0.30 3. 0.00 (0.40 %)	1040 	1980 1980 - 1980 1980 - 1980	1 26 C 4 CANAGO Maria	. 67. 33.76010037 	ROMAN W.
1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	Complementation	7.11.1 - 7 <u>1.5</u> 5 - 11.11			

[図3]

CTGCAGGTA	D 20 T TTTAGATCAC	S CCCCTTACC	0 4 C ATGATGAAC	0 50 T GATCGAAACO	D 60 E ACGGAAAAG
PstI 7 TAAAAGCTG	0 80 A CTTTTTACGA	TTTGTGAAG	CGATCGTAC	G CAACATGGCC	AAAAATTAAA
130 CG <u>AGAAGGT</u> S.D.	AACGACGATO	AGAATGGTCC) 160 G ATTTAATTC/	170	p of gppunk 180 GATGGTCATC
190 CGTTAACGA	Met 200 A AGAAGAAATT	CACTITATIA 210	LITCAAGGITA	N CACAAAAGGC	
250 ATTATCAAA1	GAGCGCATTA	GUGATGGCGA	THIMTCC		GAAGAGAGA
310 CAGCGGAATT	GACGATGGCG	ATGGTGCATT	CAGGCGATAC		TCGCCAATTC
	AGTAGACAAA	CATTCAACGG	GCGGAGTGGG		420 ACCTTACTGC
430 TTGGCCCTCT	TGTCGCCTCC	GTCGGTGTTC	CGCTTGCGAA	AATGTETGGG	CGCGGCCTTG
GACATACGGG	TGGAACGATC		AATCGGTGCC	AGGTTTTCAC	540 GTTGAAATTA
550 CGAACGATGA	ATTTATCGAT		AAAATAAAAT	590 TGCCGTTGTC	600 GGTCAGTCTG
610 GTAATTTGAC	GCCAGCGGAC	AAAAAGTTGT	ATGCGCTTCG	TGATGTGACG	660 GCAACGOTCA
	680 GTTAATTGCC	TCATCGATTA	TGAGCAAAAA	AATTGCCGCA	720 GGGCAGATG
	TGACGTAAAA	750 ACAGGTGTGG	760 GCGCGTTTAT	770 GAAAGATTTA	780 AACGATGCAA
	GAAAGCGATG	810 GTCGATATCG	820 GAAATCGGCT	830 TGGGCGTAAA	840 ACGATGGCA≜
850 TTATTTCTGA	860 TATGAGCCAG	870 CCGCTTGGT"	088 COTTACCONTA	896 AAATGCGCTT	900 GAAGTGAAAC
910 AAGCGATTGA	920 TACGTTAAAA		CACAAGATTT	CCAACAGCTG :	960 FUCTTA 7160
970 TTGGTAGCUA	CAIGGTATAT	ITMGCGGAAA	AACCATETTC		1026 SCTCCT: ATA
1030 TGTTAGAAAA	1040 AGCGATGAAA (1050 DACGGTTCAG	0001 Daardii dee	1070 ATTTAAAACG 1	LOBO TTCTTAGC 173

(その1)

(X4)

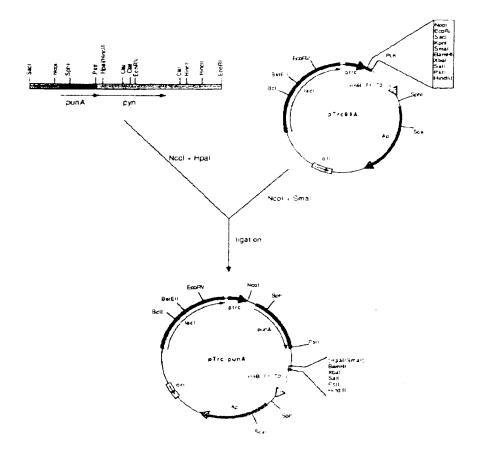
101 0911 0921 0911 0911 0901 KINTARANG BANGUTA AKNOMANNA DIAGOTOTTO TOTAGOTAGN GOTGBANNON ANTE 1210 0221 0121 ANTERAUNEA DUARNER ARDRADORRO (BORRADOTOD TEUCOTOTAC DODUCCORAC 1270 1280 1250 1390 1310 1320 Cigrosgelt cotoctiogo aaaaaactos segatosgot caaaaaaggt caat eet.c 1880 - 1840 - 1850 - 1860 - 1870 - 1880 TTACAAUTTA DAGGAACCOT GAACAACTGC ATGATUTAAA AGAAAACTA TATGAAAACA 1396 1400 1410 1420 1430 1440 PTUGTATTTE ASCAACACCT GTTCAAGCTC CAACATTAAT TT4CGATAAA ATHTCG<u>TAA</u>E STC. 1450 1460 1470 1480 1490 1500 CTGAAGGATT CATTCCTTCA GGTTTTTTA TGTATAAAAA AATAAAAAAT GGAAAGGATT 1810 1520 1630 1640 1850 1680 GCAACTATAA AGAAATGGAG GGTTGGAGAT GAAGCGATTT TITHGCATGT TTUCTATCGC 1610 1820 1570 1580 1590 1600 1610 1620 GTTFCTTTT CTTCCAAGCG TCGTTGTGCG GGCGGAACAG TCGAAAATTG 4ATTAGGAC 1580 1590 1636 1640 1650 1660 1670 1660 TGAGGCGCGA TCAGCAATTT TAATTGAGAG AGACACAGUG JCTGTTTTCT ATGAAAAAAA 1700 1710 1720 TGCCCATGAS CCCCTTCCAC CAGCGASCAT GACGAAAATT AFGACAATGC TTCTCATTAT 1770 :796 1760 1780 GGAAGCGATT GATCAAGGAA AGTTGAAGAT AGACGAGCGA GTGCGGGCAA CTGAATACGC 1810 TGC<u>ATCGAT</u> Clai

(その2)

(17)

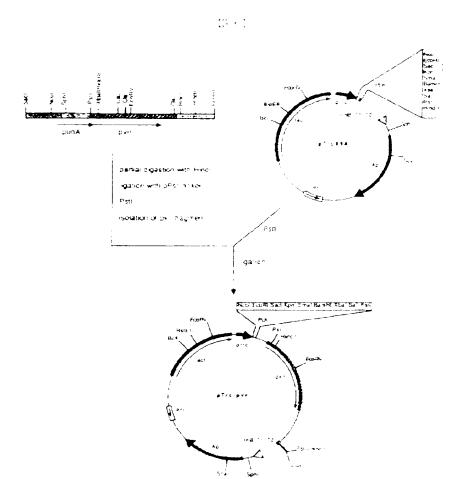
特開平6-253854

[図5]



15

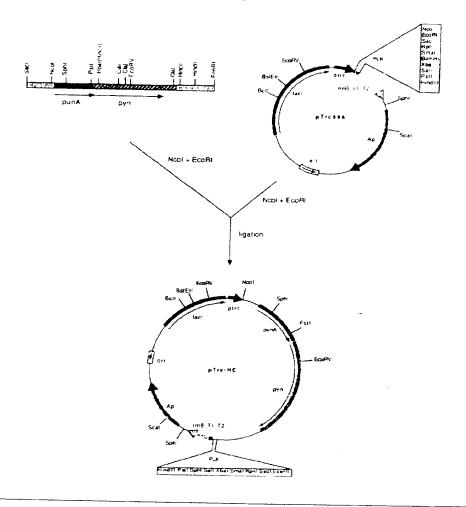
- 特職事務 - 11.8 デスタは



(19)

特開平6-253854

[図7]



フロントページの続き

(51) Int. Cl.		識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
//CC 1 2 N	15/54				1天的女仆[6]71
C 1 2 R	1:07)				
(C12N	1/21				
C 1 2 R	1:19)				
(C12N	9/10				
C 1 2 R	1:19)				

